

1st day

AM

第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／棕本 博志 長崎県教育庁生涯学習課 参事
中島 公洋 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 自立・貢献・活性化を目指す白山青年団

10:50~11:20

古瀬 栄(長崎県島原市) 島原市白山青年団 団長

現在団員は18名であるが、活動の過程で高齢のOBから声をかけられるなど、青年団活動の伝統は地域に息づいていて、「隠れ応援団員」がいることを実感している。活動目標を自立・貢献・活性化に置き、存在をアピールし、連帯意識を高める工夫の一つとして青年団Tシャツも創った。仲間を募集し、組織の力を発信するため、祭りなどの地域行事、学校や公民館などの事業に積極的に参加している。子どもを対象とした事業では、保護者や参加者の理解を得られるよう事故等には細心の注意を払っている。月1回の定例会で意見を集約し、若者代表として市政の会議などでも意見を述べるようになり、地域活性化の一翼を担っている。

2 停滯・制度疲労を活動スタイルの変革で乗り切った 有明佐賀航空少年団17年の軌跡

11:25~11:55

横尾 寛二(佐賀県佐賀市) 有明佐賀航空少年団 団長

時代の変化、団員の興味・関心の変化で、10年を過ぎたころから少年団活動は停滞し、団員も減少し続けて、一時は休団の危機に直面した。幸い、新入団員の父兄・祖父幹部団員に加え、新しい発想で時代の要求に合わせた活動スタイルの見直しを行ない、組織を再生させて継続することに成功した。団の目的は、大空に興味のある青少年が、航空関係の職場・施設の見学・団体活動の基本を学ぶことを通して、航空関係に関わる夢を実現することである。そのため、航空会社・航空保安大学校・各地の航空博物館などを見学・研修する傍ら、団体活動の訓練も行なっている。現在は、幹部団員15名、少年団員25名(内、女子4名)で構成し、活動資金は行政の市民活動助成金、民間の基金などでまかなっている。活動成果は先輩たちがハイロットや航空業界で活躍していることである。今後とも交流事業を密にし、職業体験の出前授業を開拓したい。

3 地域を耕し、人を繋ぎ、未来を拓く青年団

12:00~12:30

田山 伊穂里(熊本県球磨村) 球磨村立球磨中学校 養護教諭

3年前に誘われて初めて参加した青年団活動は30名の団員と学校を繋ぎ、更に地域をつなぐ活動に広がって行った。活動は、年間を通して主催行事を通して地域を耕し、人を繋いで行くことであった。清掃活動から始め、棚田の田植えそして稲刈り、小学生を対象とした「球磨村探検隊」、村の駅伝大会、文化祭や体育祭、球磨村ふれあいまつり、最後は村のクリスマスサンタ大作戦と続く。弟妹の世話ををする活動を通して「学校」と「青年団」が繋がっていることにも気付いた。住民交流も子どもたちの地域参加も青年たちが創り出し、青少年健全育成と同時に村の活性化の役割も担っている。青年団は未来を拓いているのである。